



感じて動く ～ Feel & Move ～

目指す児童像：かしこさいっぱい やさしいいっぱい たくまさいっぱい

三城小学校 学校だより
R5. 4. 20 第3号
校長 田中康隆

子供たちの安全な登校のために



入学式後、1年生の手を引いて仲良く登校してくる上級生を目にします。下の子が入学してくることで自覚が芽生え、精神的にも一つ成長する機会になることがあります。また、1年生の手を引いたお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんの姿も目にします。「あいさつをちゃんとしなさい」「ここで一回止まって、左右の確認をして、手を挙げて…」等、その場でしか指導できないことを、一緒に歩くことできちんと教えてくださっています。朝の時間がない中、とてもありがたいことだと思います。

子供たちがこれから先を生き抜くために身に付けさせなければならないことや子供たちの安全を考え、**車での送迎は原則ご遠慮**

くださるようお願いをしています。特に、学校を囲む道路（制限速度30キロに設定）に車を停めて子供を降ろされることは、学校周辺の車の量を増やすことになり、非常に危険であることをご理解いただければと思います。合わせて体調不良児童のお迎え等、やむを得ない場合の校内への侵入については、細心の注意を払い最徐行での運転をお願いします。

これらのことは、様々な学校で実際に事故が発生していることをもとにお願いをしています。本校でも、「ヒヤリ!」とする場面を目撃しました。**子供たちを犠牲者にしないために、保護者の皆様が加害者にならないために、**改めてご理解とご協力をお願いいたします。

感じて動く素敵な子供たち

新学期が始まって2週間が経ちますが、校内のあちこちで「感じて動く」子どもたちを見かけます。ここ数年三城小学校では「感じて動く」を学校教育目標とし、学校はもちろんのこと、保護者や地域の皆さんと一緒に取り組んできた成果と考えます。以下、いくつかの例を紹介します。

(1)「トイレの履物そろえ」は、三城小の自慢

三城小学校の3つの自慢は「あいさつ・へんじ・はきものそろえ」です。低学年から高学年まで実によく意識がなされていて、丁寧に並べてくれる子供たちを見かけます。そんな子供たちが私にとっての自慢です。

(2)「歩道に落書きがしてあります」

放課後、「歩道に嫌な言葉が落書きされています」と校長室に2人の子供たちが来ました。学校のそばかと思っただけで、数百メートル離れたところでした。暑い中、その子供たちはわざわざこのことを伝えに学校まで戻って来てくれたのです。「見た人が嫌な気持ちになるから、一緒に消そうか」と3人で消しました。

(3)「停まってくれてありがとう」

登校時の学校周辺は、車の量が多く危険がいっぱいです。通勤途中の地域の方々は、朝の忙しい中にもかかわらず、きちんと停まって子供たちが横断歩道を渡るのを優先させてくださいます。中には、渡った後、車に向かって一礼をする子供がいます。きっと、停まってくれた方はとてもいい気持ちになってくださるはずですよ。